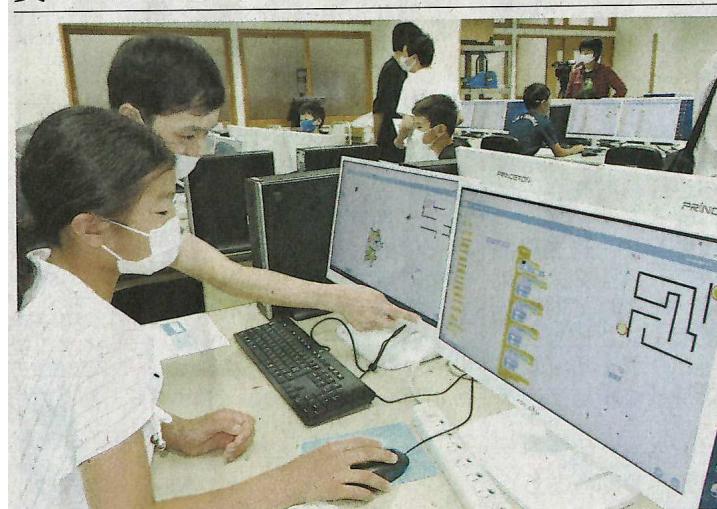


駒ヶ根市の駒ヶ根工業高校で5日、市内小学生が同校の生徒からプログラミングの仕方を教わる講座があった。地元高校生の力を社会教育に生かしたいと、赤穂公民館が同校に持ち掛けた初めて実施。小学校5、6年生15人が、教育用プログラミングソフトを使って、迷路ゲームづくりを体験。各自で設定した指示に応じてキャラクターが動くと、歓声を上げた。



駒ヶ根工業高校生からプログラミングの仕方を教わる小学生たち

↑
は、同会員
ターネットを利用した犯罪の
被害防止活動に取り組む「コ
マレンジャー同好会」の会員

駒ヶ根市の駒ヶ根工業高校を中心とする7人。高校生は、自分たちでつくった迷路ゲームを題材にし、画面に映るキャラクターの動作や迷路のコースを変更させるなどのプログラミング。思い通りに動くと、喜んでいた。講座後

(10)は「プログラミング体験は初めて。難しかつたけれど、面白かった」と笑顔。同会の美宅佑哉会長(17)は「小学生に手順を踏んで分かりやすく教えるように心掛けた。プログラミングへの意欲が高まっていたら、良いですね」と期待した。(寺田英祥)

児童・プログラミング体験 駒工高の生徒講師に講座

長野
Nagano Nippo

ご購読ありがとうございます

8月6日(金)

発行所 長野日報社

〒392-8611 諏訪市高島3 ▶0266-52-2000代

©長野日報社 2021